

ストリップ かぶりつき

有賀美雪の
楽屋育ちのひとりごと

隔月連載 第20回



時代は変わっても、
私はぬくもりを伝えたい。

プレイマガジン読者の皆さま、
そしてストリップファンのあり
がたい皆さま方、お元気でしょ
うか。毎度おなじみの有賀美雪
でございます。

この原稿を書いているときは
オフなんですけど、なぜか大阪
の十三ミュージックさんにちょ
ろちよろと出没して、タレント
さんやスタッフさんに、イヤイ
ヤ相手してもらっています。
自分でも不思議なくらい、劇場
好きというか、楽屋好きなん
ですね。

他の場所って、音楽もないし、
人がいるような雰囲気もない
から、すごく寂しいんだよね。
一人でぼつんといるみたいでさ。
自分の家より劇場の方が好き
な私だから、ステージが有賀美
雪をどんどん大きくしてきたん
だろうなっと思えるし、周りの人
たちの温かみも感じられるわ
けです。

がられるのかなあ。
おかあさんが踊り子で、楽屋
で育ってきた私は、幼少時代に
親たストリップのイメージがあ
まりにも強すぎて、それが本来
のストリップだなんて、自分で
勝手に定義づけちゃってるから、
今のストリップとの違う部分に
は、ずいぶんと戸惑いを感じる
のですよ。
もちろん、人それぞれ感覚も
違うし、ストリップの内容だっ
て違っている。見に来る方々の
楽しみ方だって時代とともに変
化していくのは当然だよ。だ
って常に時は流れているんだもの。
でも私は心のどこかで、それ
を受け入れきれていないみたい。
もしかしたらその部分だけ立ち
止まっているかもしれない。そ
れじゃいけないしね。
そう思って、見に来る人の見
方や楽しみ方はどう変わってい
るのかを考えてみたら……
昔のストリップって、踊り子
さんが脱いでいくのを、お客さ
んはじらされながらもその過程
をしっかりと楽しんでたように
思いますが、今、そんな楽し

方をしているお客さんはどれほ
どいるのでしょうか。もしかし
たら、そんなプロセスはもう不
必要になってきているみたい。

今は若い女の子の裸を眺める
ことができれば、それだけでい
いんじゃないかな。それは今の
タレントさんは、確かに美しい
と思います。でも、舞台のテク
ニックは、昔のタレントさんの
足下にも及びません。もちろん、
私も含めてですよ。

昔は、人にはできない素晴ら
しい芸を売りにしていた立派な
芸人さんが大勢いらつしやっ
たように思います。今が悪いとか
と批判するつもりはありません
が、ただ外見を磨くのもいいで
すが、それに伴って中身を磨か
なくては。

ストリップって裸を観るだけ
じゃないと思う。もしそうだと
したら、もう私の出番はありま
せん。私は、たとえ力は及ばな
くても、なにか温かいものをす
つと伝えたいし、それで自分身
も、温かくなることができたら
いいと思って、舞台上に立って
います。